

衣・食・住・遊 あの時代この時代

第1回

衣

さまざまなものが時代とともに移り変わる世の中で、
私たちの生活に必要な、衣・食・住も
そのカタチを少しずつ変化させています。
その衣・食・住に遊を加え、
さまざまなモノの移り変わりを追いながら、
私たちのいまの生活様式を見つめ直してみませんか。

若者ファッションの 移り変わり

若者文化の台頭とともに

この100年の若者のファッションはどのよう
に移り変わってきたのでしょうか。

着物から洋服へと変化していく中で、大正
末期から昭和初期にかけてはボブ・ヘア（断
髪）にシヨート・スカートで銀座通りを闊歩す
るモダンガール（モガ）、そしてモダンボーイ
（モボ）が誕生しました。

第二次世界大戦が終結するとアメリカン・
スタイルの大量流入が起こります。朝鮮戦争
での特需景気によって復興ムードがさらに高ま
り、パリをはじめとするヨーロッパなどの最新
モードが、オードリー・ヘップバーンなどの映
画を介して流れ込みました。昭和30年代に入
ると「もはや戦後ではない」と経済白書にう
たわれ、太陽族やロカビリー族などティーンエ
イジャーを中心とした新しい若者文化が台頭
してきました。

高度経済成長に突入した1960年代には、
戦後のベビーブーム時代の申し子たちが成人を
迎え、アイビーやミニスカート、ジーンズが爆
発的に流行しました。こうしてファッションは、
それまで時代をリードしてきたオートクチュ
ールからプレタポルテへ、つまり注文服から既製
服へと大きく移り変わっていきます。

自分らしさを求めて

1970年代には二度のオイルショックが
起こり、公害への反省もあつてエコロジイ思
想が唱えられるようになります。また「モー
レツからビューティフルへ」というキャッチコ
ピーに代表されるように、成長・拡大をめ
ざしてがむしゃらに進む生き方から、一人ひ
とりが自分らしさを発揮する多様な生き方
が美しいとする考えが生まれてきました。

女性ファッション
誌も相次い



で創刊され「アンノン族」という、新人種も現れるなど、世間のファッションへの関心を加速させます。ミニスカートからパンタロン、スリムからベルボトムなど目まぐるしく流行が変わること自体がこの時代の特徴でした。

バブル景気が始まろうとしていた1980年代後半、DCブランド（デザイナーズブランドとキャラクターズブランドの総称）をまとったキャリアウーマンが登場します。またメンズファッションでもDCブランドのソフトスーツが登場しブームに。ボディコンファッションに身を包んだ女性がディスコで踊る姿も話題になりました。

バブルが崩壊した後の、「失われた10年」と呼ばれる時代、ファッションは女子高生が時代をリードし、ルーズソックスや厚底ブーツ、茶髪やガングロが出現します。また、現在のストリートファッションの下地が渋谷などを中心として生まれてきます。

こうしたさまざまな変化を経て、近年はファストファッションと呼ばれる、低価格でありながら最新の流行を取り入れたショップが増える一方、流行に流されないファッションや古着のリメイクによって自分らしさを演出する人も増えています。

衣服費の変遷

ところで、ファッションにかける費用はそのように推移してきたのでしょうか。

下のグラフは、1963年（昭和38年）～2011年（平成23年）の被服及び履物の金額と家計に占める割合を示したものです。

金額は、1991年の2万3814円をピークに2011年は1万1389円と半減しています。また、家計（1か月間の消費支出）に占める割合は、1963年には10.8%、1991年に7.3%、2011年は4.0%となっています。

新しく服を買わずに、自分オリジナルに仕立てる工夫

最近はやっているのが、既製品を自分オリジナルにするための装飾を施す“デコ服”。少し古くなった服や着なくなった服を再生するファッションです。バッジやブローチ、刺繍を自分好みであしらうなど、ほかとは違ったオリジナル感が受けています。

また、和服を洋服にリフォームしたり、古着やアロハシャツをリペアしたりするなど、昔からのよい素材を、自分が着やすく個性を表現する現代版のファッションとして楽しむことも、若い人の中で流行しています。

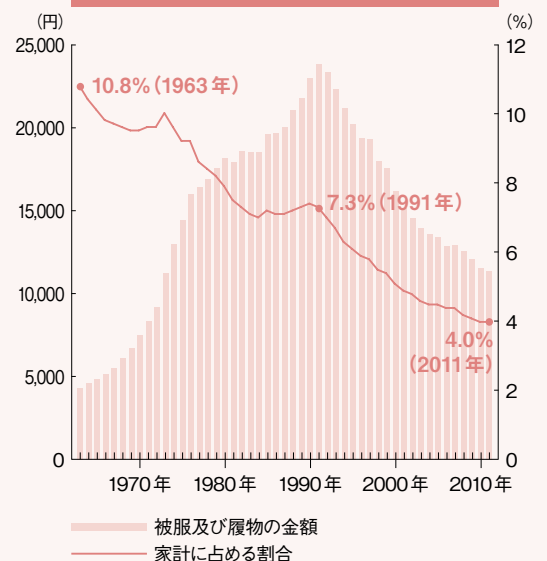
新しく服を買わずにオシャレを楽しめるデコ服をはじめとするファッションは、お金をかけずに賢くファッションを楽しむムーブメントの一つになっています。

最近の浴衣事情

花火大会やお祭り、縁日といったイベントに限らず、夏に一度は浴衣を楽しみたいという人も多いのではないのでしょうか。昔ながらの作法にこだわらず、若い人ならではのセンスのものも増えています。最近では、ラメ入りの柄ものも珍しくありませんし、時計はもちろん、ピアスやネイル、ブレスレットなどアクセサリー類も違和感なく合わせています。また、帯を結ぶのではなくマジックテープで留め、結び目は差し替えるだけのものや、数年前からは丈が短い“ミニ浴衣”なども登場しています。

こうした和装の入門編を通り過ぎると、伝統的な美しさに気づき、落ち着いた着こなしのよさを求める人が多いようですから、年配の方は過度に現代版の浴衣に眉をしかめる必要はないのかもしれませんね。

被服及び履物の金額と家計に占める割合



参考資料：「戦後ファッションストーリー」平凡社、「日本のファッション」青幻社、「世界の服飾史がすべてわかる本」ナツメ社、「日本衣服史」吉川弘文館、「あのファッションは、すごかった!」中経出版、「ファッション蘊蓄事典」アポロ出版など